



“とくしま教育の日”の 制定について

不動公民館長 岸 岡 俊 憲



私達関係者の待ちに待った、“とくしま教育の日”の条例制定が、平成十六年三月の徳島県議会本会議に於いて、議員提案され本年十一月から、実施される運びになったことは誠によろこばしいことです。

条例の第一条（趣旨）の中に、県民の教育に対する理解を深めるとともに、学校教育及び社会教育の振興の気運を醸成し、その充実と発展を図るため、“とくしま教育の日”を設ける。

第二条 “とくしま教育の日”は、十一月一日と

する。

① 広く県民（地域住民や保護者を含む）が参加できる事業

② 学校において、教職員児童、生徒だけを対象とした事業であっても、地域の清掃ボランティア、民間企業における「就業体験、他の学校や社会福祉施設との交流等、地域社会と関わりを持った事業」については対象事業とする

③ 現時点において、教職員、児童、生徒だけを対象とする企業であっても、各学校において可能な限り県民参加型への衣替えが図られるよう調整する。

④ 十一月一日から十一月七日の間に実施予定の事業を“とくしま教育週間実施事業”として位置づける。

⑤ 事業実施を教育週間以外に予定している場合については、可能な限り“とくしま教育週間”に実施できるよう調整する。

人口男子	1,666
女子	1,765
計	3,431
世帯数	1,398
平成16年12月1日現在	

館 長 者 岸 岡 俊 憲
 責任者 岸 岡 俊 憲
 印刷 印刷(株) グランド

本年度第一回の“とくしま教育の日”の実施事業については県全体の学校関係で、五〇一事業にのぼっています。不動学園でも、オープンスクールが実施されました。

私達の属している“とくしま教育の日”の推進委員会では、この趣旨にそって、“家庭と地域社会の縁と絆の強化”として研修問題資料特集とし

て、第二回の広報紙を発行して、すでに関係機関に配布済みです。

幸いにも不動町ではこの問題についてかなり進んでいるように思えます。

その二、三を紹介してみると、不動総合センターを中心とした行事、五月のサツキ展、八月の夏祭り、十一月ふるさとカーニバル等、地域、学校、家庭の結びつきが立派になされた事業で多くの人からよろこばれています。

又十二月毎年実施されている鮎喰川左岸堤防除草についても、学校、地域、家庭との関係のもとに不動町の玄関口が大変美しく、道路の美化に関する啓発を大人の人に呼びかけている大変素晴らしい行事だと賞讃されています。

不動町では昭和五十年頃から、学社連携の町づ

くりを基本課題として取り組んで来た。その内容は地域懇談会として九地域にわけて「地域ぐるみで子どもをのばすには」の表題のもとに学園、社会教育関係者、保護者等それぞれの立場で意見をのべあうすばらしい会で三十年近く続けています。この内容については今年の地域、学校、家庭の連携として県下一般の教育関係者に紹介しました。

私達不動町では、地域、学校、家庭（保護者）との結びつきはかたく、来年度は出来たら“とくしま教育の日”の推進期間である十一月一日から七日の間に行事を持って“とくしま教育の日”の意義を高めていきたいと思えます。最後に“とくしま教育の日”を定める条例を紹介しておきます。

展を図るため、とくしま教育の日を設ける。
 （とくしま教育の日）
 第二条 とくしま教育の日は、十一月一日とする。

（とくしま教育週間）
 第三条 第一条の趣旨にふさわしい取組を行う期間として、十一月一日から同月七日までをとくしま教育週間とする。

（事業等）
 第四条 県は、とくしま教育週間において、第一条の趣旨にふさわしい事業を行うものとする。

2 県は、県民及び市町村その他の団体に、とくしま教育週間を中心として、第一条の趣旨にふさわしい事業を行うよう協力を求めるものとする。

3 県は、前二項の規定により行われる事業について、広く県民に参加を呼びかけるものとする。

附 則
 この条例は、公布の日から施行する。
 （とくしま教育の日）
 推進委員会会長

家庭と共に子育て

不 動 保 育 所

保育所の子ども達は一日の活動の大半を保育所で過ごしています。

不動保育所では、近頃〇・一歳児の入所も多くなり家庭と保育所が両輪となって子育てをし、その中で成長していく子ども達が増えていきます。

入所年齢が低いほど一人ひとりの子どもが保育所の環境に馴染むために、子どもを保育所の環境に合わせるのではなく、どれだけ保育所の環境を家庭の延長として近づけられるかを考え、個々の生活の仕方を把握し、限られた空間の中で、一人ひとりが落ち着いてゆつくりと食べ、眠り、遊ぶ環境を工夫して作ることを大切にしています。

保育所の子ども達は一日の活動の大半を保育所で過ごしています。そうしたことからもいかに子どもにとって生活リズムが大切かを考えさせられますので、ご家庭に度々ご協力やお願いもしています。

また、〇・五歳児の子ども達も生活する保育所では、様々な活動や体験を通して、心を動かし十分遊びきるにより、満足感や自信をもち、自分なりに表現する意欲や、友達への思いに気づく豊かな感性の育成をめざし、日々の保育に取り組んでいます。



体験のひとつとして、一年を通しての広い畑での栽培活動。汗をかきながらの草抜き、水やりの労働体



親育ち子育ての幼稚園

不 動 幼 稚 園

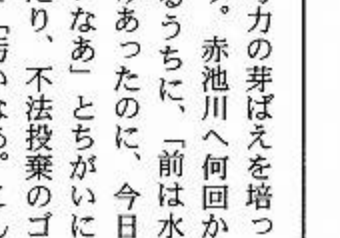
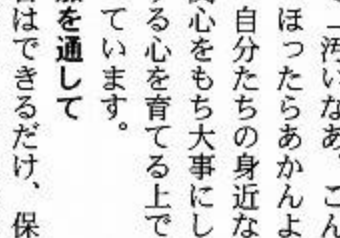
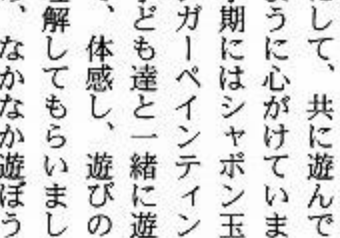
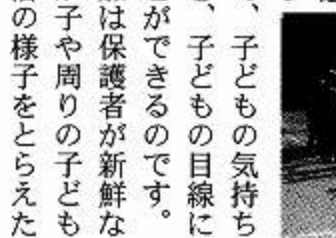
成長した作物の収穫や喜びを味わったり、長期間に渡ってのお米づくりの体験。ままごに草花を使用した染め体験。今年のふるさとカーニバルには秋の様々な自然物を利用して、親子でふれあいつつ秋のフレームづくり挑戦した作品も出品しました。子ども達が畑で収穫した作物は時季に応じて調理員さんが給食に利用してくれ、子ども達の大好きなメニューとなっています。その積み重ねにより、自然や食物に対する感謝の思いも育っています。

とも交流し、つながりを深めています。こんな不動保育所に、小さいお子さんがいらつしやる保護者の方どしどし遊びに来て下さい。一緒に子育てをしましょう。地域に根づいた保育所をと願っていますのでこれからも地域の皆様よろしくお願ひします。

小春日和の陽ざしの中、園児達は元気に園庭を駆けまわって鬼ごっこをしたり自転車やスケーターを走らせて遊んでいます。幼稚園を訪れた人が、「活気のある幼稚園やな」と感心してくれました。全員で二十一名の少人数の園ですが、毎日、教師と共にいろいろな運動や遊びを経験し、たくましく生きる力の基礎を培っています。保護者には毎日の園児の送迎や園行事の参加等全面的な支援と協力をいただいています。

今年度も幼稚園では、「思いっきり心や体を動かして遊ぶ喜びを味わうための環境や援助について考える」を研究テーマに、体を動かしたり、戸外で遊ぶことが好きな子どもを育てることを目標に保育に取り組んでいます。今年度は特に、園外保育をできるだけ取り入れて、地域や自然の中での活動を多く行っています。赤池川での魚・カニとり、田んぼでのおたまたまじゃくし

さがし、土手すべり、城山への山登りや木登り、牧場への牛の見学等、園外や戸外での直接体験は体力を向上させると共に子ども達に発見や驚きの感動を与え、豊かな心情や思考力の芽ばえを培っています。赤池川へ何回か出かけるうちに、「前は水がよけあつたのに、今日は少ないなあ」とちがいに気づいたり、不法投棄のゴミを見て「汚いなあ。こんなところへほつたらあかんよな」等、自分たちの身近な環境に関心をもち大事にしようとする心を育てる上で役だっています。



り、教師や他の親から刺激を得たりしながら子育ての視野を広げる貴重な機会となっております。

子育て講座を通して

幼稚園では文科省の助成事業として年間五回の講座を開いています。主に、参観日を利用して、講師の先生や地域の人を招き、親子で運動遊びや手作りおもちゃで遊ぶなどの実技を行っています。第一回は四



親子の運動遊びや曲に合わせたリズム指導を受け、お父さんやおばあちゃんも魔法がかかったように動きはじめました。「子どもと触れ合う機会となり楽しかった」「また、家でもしたい」などの感想が聞かれました。親子のスキンシップの大切さや体を動かすことの気持ちよさを感じてもらえたようです。第二回は四

国大学の井村雄三助教授の指導で手作りの木のおも



ちやで遊びました。いろいろな種類のこまを親子で力を合わせて回したり、競争したり、既成のおもちやでは味わえない温もりを味わったようです。最後にフィルムケースで音の出るこま作りをして、作って遊ぶ楽しさも実感しました。子育て講座の参加をきっかけに、親子で遊んだり活動したりする楽しさを知るよい機会となっております。

人権教育小集団学習から一学期の参観日の後、年

限別に保護者と担任が講師の先生を囲み、日頃の子育ての悩みや人権について話し合う場をもっています。保護者は悩みを話したり、他の保護者の話を聞いたりすることで、不安がやわらぎ、このことをきっかけに仲良くなっています。担任

も、家庭訪問や送迎時には聞かれなかった家庭での子どもの様子や親の考えに触れ、大きな収穫を得ました。子育ての悩みを相談しあう場として、これからも場の提供や機会を作ってきたいと思っています。

地域行事への参加を通して

さつき展、ふるさとカーニバル、公園除草等地域での様々な行事や奉仕活動に保護者全員が役割を担って参加しています。日頃、幼稚園では目立たず、控え目なお母さんが、生き生きとわらびもちをパックに詰めたり、販売したりしている姿に出会いました。地域行事への参加は、保護者の自己発揮、自己充実の大切な場となっております。

今年、ふるさとカーニバル展示の作品に親子で作ったリースを出品することができました。裁縫の得意なお母さん達が集まって、飾りの小物を自主的に作ってくれたのです。保護者の中には、自分自身をもっと充実させたい、力を発揮してみたいという欲求がみられます。そのような

思いや力をつなげ、互いの子育てに張り合いをもたせていくことも幼稚園の役割であると思います。幼児期

の教育は、親自身も育てていくことをめきにして進めることはできません。これからの幼稚園が、子育て支援の場として機会を提供

不動小学校の一年

不動小学校

平素は本校教育にご協力くださりありがとうございます。地域の皆様のご協力により、高野順一校長をはじめ教職員十七名、児童百六十四名(十二月現在)充実した生活を毎日送っています。

今年度の不動小学校での取り組みについていくつかご紹介いたします。

外国人講師による

英会話学習

十月二十二日(金)を皮切りに計四回、イギリス人のダニエル・トルノーデン(愛称ダニエル先生)を講師に迎えて、



英語のあいさつや外国の様子を教えるもらっています。ダニエル先生は背が高く、明るく

し、親同士が主体的に活動できるよう、教師も共に育っていききたいと思えます。

子どもたちに人気で、毎時間元気に英会話を教えてくれます。例えば、イギリスをはじめインド・アルゼンチン・中国・韓国などのあいさつを取り入れたゲームや、色紙をいろんな形に切って飾りを作る等みんな夢中になっています。

ちよっぴり恥ずかしそうな児童もいますが、ダニエル先生が来てくれる時を楽しみにしています。これからは日本にいても英会話が必要となる時代、この取り組みをきっかけに子どもたちが英会話に興味をもってくればいいのにと考えています。

毎年高学年を中心に徳島市の体操発表会、水泳検定会、陸上記録会等各種の大会に参加しています。今年度は十数年ぶりに徳島県小

徳島県小学校

体操発表会出場

学校体操発表会に出場する機会を与えられて、九名の児童が発表会に参加しました。種目は跳び箱・マット・鉄棒の三種目でした。選手は朝早くから体育館に集合し、よく練習しました。特別に体操の専門の先生を講師に招いて、直接ご指導もしていただきました。

練習の成果もあって、高度な技もきれいにできるようになり、ポーズの決め方も様になりました。本番では徳島市の代表として、堂々たる演技ぶりでした。

学力向上にむけて

(基礎学力向上プロジェクト事業から)

昨年度に引き続き、子どもたちに確かな学力をつけていくために、様々な取り組みをしてきました。

昨年度の研究の反省から、今年度は国語科では話す力・聞く力・算数科では





文章題を読みとる力・計算力を重視して研究を進めることにしました。全学年で研究授業を実施し、大学より講師を招いて、効果的な指導法や新しい指導法についてご指導いただきました。

校内LANの設置

十一月より、校内の各学年の教室や図書室・体育館等の特別教室で、インターネットに接続することができるようになりました。子どもたちが学習する上で必要な情報が、簡単に早く手

に入るようになり、理科・社会科・生活科をはじめ、総合的な学習の時間によく活用されるようになりました。またプロジェクト（投影機）も導入されたため、コンピュータの内容を一度に多くの子どもたちが視聴できるようになり、分かりやすく理解が進み易く、学習効果を上げております。

不動中学校区では、県より「人権のまちづくり地域教育ネットワーク推進事業」を受け、次の四点を重点課題にして取り組みました。



「つづきゆい、ちやうどん、地域ぐるみらんどびら」

不動中学校

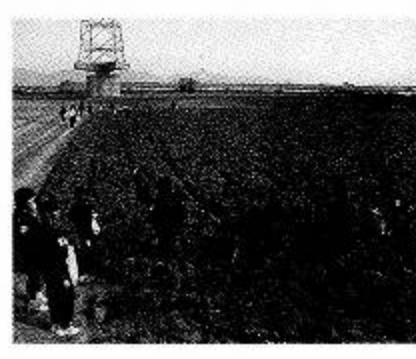
- ア. 学力向上を中心に据えた「自尊感情」の育成
 - イ. 子育てを中心とした家庭教育の育成
 - ウ. 地域、保護者、学園の新しいネットワークの確立
 - エ. 体験的活動を取り入れた新しい教育内容の創造
- 従来から地域の中心となつて活動されてきた方々だけでなく、新たに地域教育ネットワークの一員として活躍していただけるように、学校教育への支援、協

が広がっています。

赤池川の改修

地域の方々の協力により、校舎北側の赤池川が改修され、美しく整備されました。春には花が咲き、小さな魚やかえるがたくさんいて、子どもたちは網を持って捕まえようとして、花を摘んで飾りをつくらたりと楽しんでいました。自然に親しむ機会が増え、子どもたちに自然を愛する感性が育つことを期待しています。

力をお願いしました。ここでは、ウ、エの二点について三年間の取り組みを紹介いたします。



その一つが鮎喰川堤防へのゴミ不法投棄を防止する看板づくりです。昨年度は、地域の方を講師に招き、陶板作りにチャレンジするとともに、その陶板を看板として仕上げるのにも地域の方に力をお借りしました。

二つ目が子どもたちの健全育成を目指した地域の方との交流ソフトボール大会です。

三つ目が「農業体験学習」です。地域の方からプロッコーの栽培について五日間にもわたりお教えをいただき思い出に残る取り組みとすることができました。

このようにして、地域の教育力を新たに掘り起こし、子どもたちにつなげる機会を多く持つように努め

てきました。その中で、子どもたちは自分たちが育つた地域のよさや特徴、課題を再確認し、今後の町づくりに深く関わろうとするようになってきています。その表れが今年度、二年生で取り組んだ「将来の不動町の進むべき姿」についての学習で、ブロック人権教育研究大会やふるさとカーニバルで発表し、来場された方々にアピールすることができました。

また、先進地に学ぶということで、一昨年度は和歌山県吉備町への視察を行うとともに、昨年度はその吉備町より講師をお招きし講演会を行いました。吉備町では、全国に先駆けて同和問題の完全解決を宣言しており、そこに至るまでの基本的な構えや概略について話を伺い研修を深めました。「特別からの脱却」を強調されており、「他の地域にないものはなくし、他の地域にあるものはつくる。」等、その取り組みの視点が大変新鮮でカルチャーショックを受けました。もちろん、その裏には綿密で用意周到な行政のバックアップがあったことはいくらでもありません。また、町づくり、人づくりに対し

てどこにも負けない気概を強く感じました。

この事業の指定は今年度で終わりますが、今後も引き続き、保護者、地域の方々のご協力をいただき、学園が一体となつて、次世代を担う子供たちの成長に携わっていききたいと思っております。

- 不動中学生の活動記録
- スポーツ活動関係
- ◎県陸上競技カーニバル
 - 砲丸投(一位)久次米裕介
 - 砲丸投(四位)岸本 亜希
 - 砲丸投(五位)佐野 千夏
 - 砲丸投(六位)吉本 真理
 - 円盤投(一位)久次米裕介
 - 円盤投(三位)吉本 真理
 - 円盤投(四位)岸本 亜希
 - 円盤投(五位)佐野 千夏
 - ◎県中陸上競技大会
 - 砲丸投(一位)久次米裕介
 - 走幅跳(二位)東 淑公
 - ◎通信陸上競技会徳島大会
 - 砲丸投(一位)久次米裕介
 - 走幅跳(二位)東 淑公
 - ◎四国中学校総合体育大会
 - 走幅跳(三位)東 淑公
 - ◎市中学校陸上競技大会
 - 総合の部 (三位) フィールドの部(二位) Aブロック (二位)
 - 砲丸投(一位)久次米裕介
 - 砲丸投(三位)岸本 亜希
 - 円盤投(一位)久次米裕介

- 円盤投(五位)吉本 真理
- 走幅跳(二位)東 淑公
- 棒高跳(二位)井坂 祐大
- 三段跳(四位)中山 大輔
- 百 M(六位)武市 祐里
- 百 M(八位)岸 優作
- 八百M(二位)武市 祐里
- 千五百M(四位) 榊 勝政
- 三千M(六位)榊 勝政
- 百十MH(八位) 井坂 祐大
- 四×百MR(七位) 岸 優作
- 四×百MR(四位) 仲野 真穂
- 佐藤亜沙美
- 佐野 千夏
- 武市 祐里
- 西署管内防犯球技大会 (一位) バレーボール部
- 市陸上競技選手権大会
- 砲丸投(二位)久次米裕介
- 砲丸投(二位)岸 亜希
- 円盤投(二位)久次米裕介
- 円盤投(二位)吉本 真理
- 郡市対抗陸上競技大会
- 砲丸投(三位)久次米裕介
- 八百M(六位)武市 祐里
- 文化活動関係
- 市同和問題啓発ポスター (準特選) 岡山 二奈
- (入選) 武市 優子
- (入選) 仁木 里紗

- (入選) 丸山 良
- 市人権作文コンクール (最優秀賞) 中山 大輔
- (優秀賞) 井原 愛美
- 県同和問題意見発表大会 中山 大輔
- 市音楽創作コンクール (特選) 山野 彩香
- (入選) 川上 紗知
- (入選) 武市 百加
- (入選) 日野 志保
- (入選) 仁木 瑞保
- 全国学校合奏コンクール 徳島県大会 (優良賞) 音楽部
- 徳島県学校音楽祭 器楽の部 音楽部
- MBSこども音楽コンクール合奏第一部門 (優秀賞) 音楽部
- 平成十六年度 不動町新成人名簿
- 阿部 健司 井内 智津
- 井藤 裕也 上原有紀子
- 大原 未来 岡田 直也
- 北尾 武敏 木内 麻実
- 久次米智美 越 貴文
- 坂崎 永奈 坂本 竜規
- 佐藤 美咲 清水 祐子
- 四宮 直也 下塚 潤一
- 武市 真実 田村 彰寿
- 中口 新也 中山 亜美

- 非行防止弁論大会 (優秀) 山野 彩香
- 市中学校英語弁論大会 (佳良賞) 井原 愛美
- (佳良賞) 武岡 裕美
- 浄化槽の日ポスター (佳作) 仁木 教陽
- (佳作) 山本 真士
- 県中学校生徒作品展 美術の部 (優秀賞) 佐藤亜沙美
- (優秀賞) 武市 祐里
- 税についての作文 (優秀賞) 山本 真士
- (優秀賞) 中山 大輔
- (優秀賞) 丸山 良
- 国際理解ポスター (佳作) 武市 優子
- 市中学校科学作品展 (入賞) 山本安紀子
- 新居加寿代 仁木 希美
- 仁木 光俊 西川 聖美
- 福田 健二 藤原 千春
- 堀江あすか 前田 真美
- 松本 千晶 丸山 良二
- 三木 佳樹 森本 敦
- 横田 実希 渡邊 泰子
- 男子 十六名
- 女子 十八名
- 計 三十四名



堤防の清掃



今年も不動町年末の恒例行事として実施された。十二月四日(土)・五日(日)天候不良の為一週間延期となった。

なった町内ボランティアによる、鮎喰川左岸堤防の清掃奉仕作業を行った。事前に不動小・中学生が空き缶ビン等の回収を行ってくれ、又学園の職員が事前に草刈りを実施、当日の作業が少し楽であった。当日は旧弁天橋より不動橋西までの除草を行った。

二日間好天に恵まれ、皆さん汗をかきながら能率を上げていった。旧弁天橋より不動橋にかけて見違えるように美しくなり作業後の草、缶ビン等の処理も所定の場所へ集積される。不法投棄等の看板も設置、当日は事故もなく無事作業を終える事ができました。皆さんののおかげで美しくなりました。今後も皆さんの協力で美しい町づくりをめざそう。皆さんの協力を感謝します。

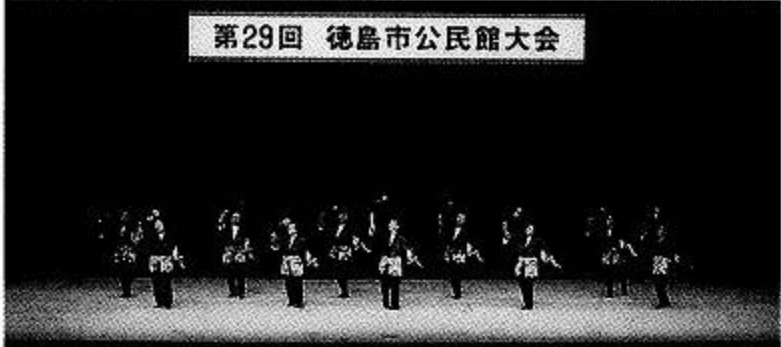
第29回 徳島市公民館大会に参加して

十月二十五日(月)徳島市公民館連絡協議会主催の市公民館大会が開催された。二十九回目を迎えた公民館大会は市内より三十一館が参加。日頃の練習の成果を各公民館が発表した。

- 不動町は民踊けんちゃん音頭を披露した。婦人会十名による楽しい踊りに、会場全体よりあたたかい拍手子、拍手を頂き大好評を頂き約五分の演技を終えた。
- なお開会式での表彰式では
- すくらむ教室 坂田千代子様
- 公民館連絡協議会 山本 彰一様
- 笠井福太郎様
- 木内 隆夫様
- 藤本 護様



第29回 徳島市公民館大会





不動文化財保勝会

「公道は時代とともに」

古来阿波五街道の一つにあげられた讃岐(さぬき)街道は、私たちの町を南から北へ通り抜けている。

中世期の細川・三好時代は佐古・矢三・今切の村を抜けて北進、角瀬(すみぜ)の往還から城端(しよづい)城へと、「さぬき引田へ至る大道」として通じていた。

近世に入って寛平十五(一六七八)年の絵図を見ると、伊豫街道の佐古町で別れて田宮川や鮎喰川を徒歩渡りして、角瀬往還を下り松の舟渡し(角瀬の渡し)で別宮川を渡り、吉野川本流を高木の舟渡しで越え、大寺の町から大坂峠を通過して讃岐の国に入った。

上郡の物産を徳島城下に送る道として、寛文十二(一六七二)年に名西郡第十村(石井町)で新川掘抜き工事によって、吉野川の水が別宮川に流れ込む様になり吉野川が道の役を果たすことになった。徳島藩は宝暦二(一七

五二)年に下板地方の農業用水確保の為、第十村に堰(せき)を設けて旧吉野川下流へ流した。

元禄十三(一七〇〇)の絵図を見ると、番所制度が確立され、城下町の整備に伴って讃岐街道は重要視されて、一里松が島田・徳命・吹田の村々に植えられ、大坂峠をめざす街道は、佐古町、佐古郷町から西へ西へ上鮎喰の方へ伸びる伊豫街道と、佐古三ツ合(県立中央病院前)で分かれた道は、蔵本

から田宮川沿いに島田石橋へ、神明社前・久保津社前を通過して鮎喰川を徒歩渡りして新居不動尊前から元木商店前を通り、東崎地蔵尊前から学園通りを経由して赤池川を越えて、あみだ橋(不動北町一丁目)をこえて別宮川を徳命(名田)の舟渡しで徳命(現藍住町)から、撫養街道と交叉していた大寺(現板野町)の町へ続いていた。とくに八幡街道との分岐点であった島田石橋と佐古三ツ合までの間は、四国霊場巡拝街道(へんろ道)の一部で今もその面影を残している。

ゴミ減量と環境問題について

婦人会長 佐野 紀代

永年の地域住民の方の夢であり希望でもあった赤池側の改修工事も着々と実施され既に整備されている小学校と中学校の北壁近辺も地元の有力な方の並々ならぬ努力によって見違える程美しくなり住民の一人として感謝の念にたえません。

又その一方東町四丁目の日毎に増える粗大ゴミの山を見るたびに心が痛む思いで一杯です。今では3mの道幅も普通車も通れない状態です。不法投棄すれば廃棄物処理法において厳しい処罰をされます。例をあげればきりがございませんが、

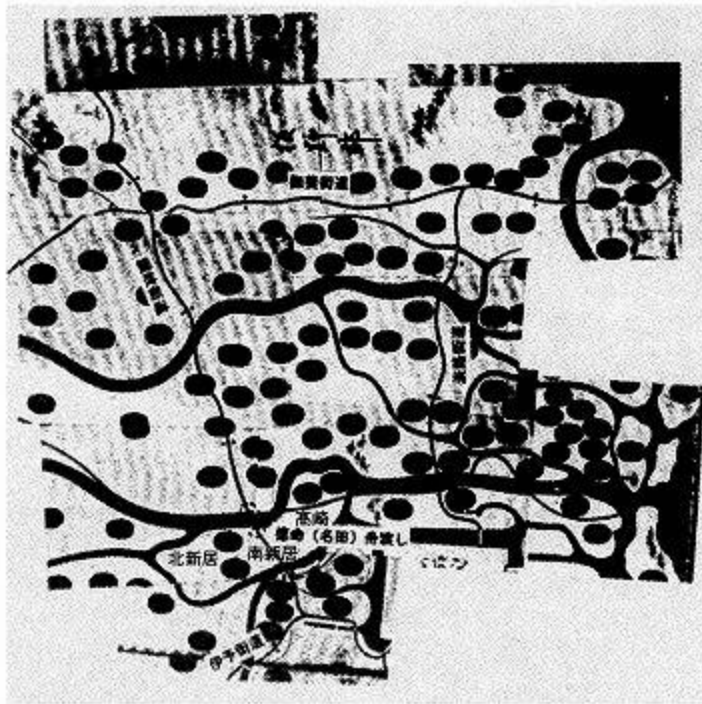
二、三紹介します。一つは徳島県外の人が眉山のふもとに家具を捨てた事例です。たまたまその行為を見ていた人が警察に通報し捨てた犯人を逮捕し二十万円という多額の罰金を払うはめになった事です。

あります。皆さんの御協力により、リサイクルで新しい製品が生まれ、これまで処分される埋め立てられていたゴミが、年間三、〇〇〇トンがリサイクルされている見込みと聞いています。省エネルギーとリサイクル出来る物が私達の暮らしの中に、たくさんあると思います。ゴミはきちんと分別して出来る限り資源ゴミとして出すよう心がけたいと思います。

我が地区でも昨年そのようなことがあり、ある人の協力により家をさがして捨てたゴミを持ち帰るよう厳重に注意をした事もあります。そのように所かまわずすれば処罰される事を知らなければなりません。不法投棄をする人を見たら、唯ちに警察に通報し美しい町づくりにお互いが協力し合い、お一人お一人がマナーを守り環境美化意識を向上させ美しい町作りをしてまいりたいと思います。

又十月一日よりゴミ分別収集が八分別になり、ゴミの分け方出し方が変わっています。ゴミ減量を心がけ、リサイクルを推進するために、食品トレイの拠点を不動コミュニティセンターに置いて

終わりになりましたが、先日五日天候の悪いなか地域清掃に参加して下さった衛生組合員の方々、大変御苦勞様でした。書面をもって厚くお礼申し上げますと共に、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



元禄十三年の絵図